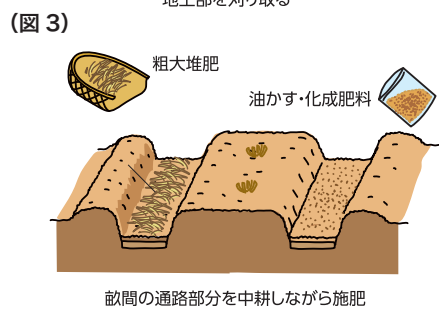
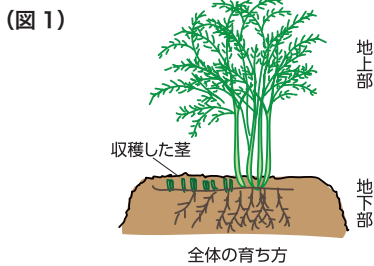


チャレンジ！
野菜づくり
冬の手入れが
翌年の出来を決める
アスパラガス

板木技術士事務所 板木利隆

アスパラガスは野菜の中では長命で、一度植えれば数年は収穫が楽しめます。毎年良い収穫物を得るには、冬の適切な手入れが大切です。

若芽の収穫を一定日数で打ち切り、芽を伸ばしたままにすることで、葉が開いて丈が伸びます(図1)。すると、葉の光合成が旺盛になって、秋に養分が根に蓄えられ、11~12月には株全体が休眠に入ります。霜が3~4回降りると葉の



黄化が進み、休眠はいつそう深まってくる。

ここから先の手入れで大事なものは、葉が完全に黄変し、休眠が深まっている頃を見計らって、地面から5~6cm上の所で葉を刈り取ることで(図2)。この枯れ葉には茎枯れ病などの病原菌が付いているので、落ちた枯れ葉と共に畑の外に持ち出し、焼却または廃棄します。この処置が不十分だと、病原菌が茎や葉の中で越冬して翌年の発生源になり、数年たった大株でも枯死し、大減収になってしまいます。そのためできるだけ丁寧にかき集めて処分することが肝心です。茎や葉をきれいに片付けた後、株元に多くの土寄せをしている場合は、土を一旦、畝の間に戻します。土寄せが少ない場合は、その

まま畝の間の通路部分を中耕しながら、畝の両側に深めの施肥溝を作り、その中に粗大堆肥(発酵度は中程度が良い)と油かす、緩効性の化成肥料を施し(図3)、アスパラガスの根株を深く埋めるようにし、畝上に土を大きく上げておきます(図4)。こうすることで根株を冬の寒気から守ることが出来ます。寒さが厳しい地域ほど土を大きく盛り上げることが大切です。

3月頃、萌芽に支障がでない程度に、寄せていた土を取り除いて畝の間に落とします。このとき春の追肥として、化成肥料や有機配合の肥料などを、1株当たり大さじ3杯程度を目安に与えておきます。ここまで再三、土を動かしたこと、地面付近に落ちていた雑草の種子の萌芽を抑えられ、翌年の除草の手間が省けます。

栽培年数が長くなり、株元の根系が過密になり、株全体が浮き上がるようになったら、冬の休眠中に株全体を掘り上げ、分割して他の畑に、株間を広げて植え替えることで、再び勢いは回復するでしょう。

肥料・農薬のご紹介

様々な効果を持つ

「石灰窒素」

石灰窒素20kgには、硫安20kg相当の窒素成分、苦土石灰20kg相当のアルカリ分が含まれており、様々な効果をあわせ持つ、非常に便利な資材です。



土壌にまくと、有効成分・カルシウムシアナミドが、土壌中の水分と反応・分解して農薬効果を発揮します。その後、さらに分解が進んで肥料成分などに変わるので、農薬成分は残留しません。

※必ず適用作物・適用内容等を確認してから使用してください
※かぶれの原因や、酒類への耐性が弱くなる成分が含まれるため、使用の際はマスク・手袋等で防護し、使用当日の飲酒は控えください

■石灰窒素の3つの効果

- ① 肥料効果
窒素が長く効く・カルシウム補給
- ② 農薬効果
殺虫、殺菌、除草
- ③ 土づくり効果
有機物の腐熟促進・酸性土壌の矯正

※ご不明な点は、お気軽に各営農センターまでお問い合わせください